

日本リハビリテーション医学会 第6回オンライン記者懇談会を開催

2025年3月11日、「感染症パンデミック時に必要なリハビリテーション医学・医療とは？ 新型コロナウイルス感染症の経験から」をテーマに、第6回オンライン記者懇談会が開催されました。COVID-19パンデミックから5年を経て、リハビリテーション医学・医療の果たすべき役割について発表が行われました。

最初に日本リハビリテーション医学会理事長の安

保雅博先生が、リハビリテーション医学は単なる機能回復ではなく「活動を育む医学」として発展しており、特に高齢化や障害者支援の文脈において、早期のリハビリテーション治療の必要性が高まっていることを強調しました。また、医療の現場にも多様性と包摂（D & I）の視点を取り入れるべきと述べ、2025年7月に北海道で開催予定の障がい者ゴルフ大会の取り組みも紹介しました。

記者懇談会の概要

■日 時

2025年3月11日（火）17:00～18:00（16:45受付開始）

■開催方法

Zoomによるオンライン開催

■テーマと説明者

（司会・挨拶）

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 理事・広報委員会委員長

東京科学大学病院リハビリテーション科 科長

酒井朋子

1. 日本リハビリテーション医学会の平素の取り組み（健康寿命延伸とD & I社会における取り組み）の中でのコロナ禍（15分）

（説明者）

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 理事長

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座 主任教授

安保雅博

2. 感染対策指針（COVID-19）のとりまとめとその後（15分）

（説明者）

国立国際医療研究センター病院リハビリテーション科 診療科長

藤谷順子

3. コロナ禍のリハビリテーション医療場面とその実情、医学会の取り組み（10分）

（説明者）

東京科学大学病院リハビリテーション科 科長

酒井朋子

4. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）後外来～Long COVIDと経頭蓋磁気刺激（10分）

（説明者）

聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション科 主任教授（診療部長）

佐々木信幸



安保雅博理事長



藤谷順子先生



酒井朋子先生



佐々木信幸先生

続いて、国立国際医療研究センター病院（現：国立国際医療センター）の藤谷順子先生が、COVID-19 感染対策指針の策定経緯とその後の展開について報告しました。With コロナ時代において、依然としてインフルエンザなどの感染症対応に迫られる医療現場の中で、リハビリテーション治療が患者の回復に果たす役割の大きさを具体的事例とともに説明しました。東京科学大学病院の酒井朋子先生は、コロナ禍におけるリハビリテーション診療の現場の課題と対応策について語り、医療従事者の安全確保と患

者の機能維持を両立させる困難さを浮き彫りにしました。聖マリアンナ医科大学病院の佐々木信幸教授は、Long COVID への対応として開設された新型コロナウイルス感染症後外来の実績と、経頭蓋磁気刺激（TMS）を用いた治療効果について具体的な報告を行いました。

今回の懇談会は、感染症対策にとどまらず、災害時医療や慢性疾患管理にも応用可能なリハビリテーション医学の可能性を再確認する場となりました。

（文責：広報委員会）